

多様性が輝く

ユニバーサル社会へ



共創・連携・価値創造への経済界の取り組み

“Mobility For All”「全ての人にモビリティを」

トヨタ自動車の考える未来

トヨタ自動車

トヨタ自動車が2017年末より販売を始めた「JPN TAXI」は、これからの日本における社会変化を踏まえ、最も身近な公共交通機関であるタクシーがどうあるべきかを考えて開発したクルマである。私どもは、この「JPN TAXI」によって次のような社会を目指している。

第1に「ユニバーサル化、バリアフリーな街づくり」だ。超高齢化社会に向かう日本において、高齢者や車いす使用者の方が健常者とともに生き活きと活動可能な社会を目指し、日本のバリアフリー化の一助となるべく「ユ

ニバーサルデザインタクシー」とした。

第2に「安全・安心な街づくり、環境に優しい街づくり」だ。お客様を乗せて走るタクシーは最も安全・安心なクルマでなければならぬ。そして長距離を走るタクシーだからこそ環境対応が必要だ。「JPN TAXI」は、先進の安全装備を標準設定し、またLPガスエンジンにハイブリッドを組み合わせ、CO₂排出量をコンパクト系タクシーの半分(燃費が2倍)にまで向上させた。

第3に「日本の観光立国化への貢献」だ。「JPN TAXI」は「おもてなしの心を形

に」したタクシーである。このクルマが提供するサービスと日本のタクシードライバーの接客により、外国からの旅行者に「日本のおもてなしの心」を感じてもらい、日本のファンを増やしたいと考えている。

来年は東京オリンピック・パラリンピック開催が控えている。当社は「JPN TAXI」の導入を通じ、上記のような考えのもとに、しっかりと貢献していきたい。

「JPN TAXI」のユニバーサルデザイン

最も身近な公共交通であるタクシーを、今まで使われなかった(使えなかった)方が1人



JPN TAXI 外観

でも多くご利用いただけるよう企画した。例えば高齢の方がタクシー利用を躊躇する理由として「乗り降りのしにくさ」が最も多く、車内での移動にも苦労されているシーンが数多く見受けられた。

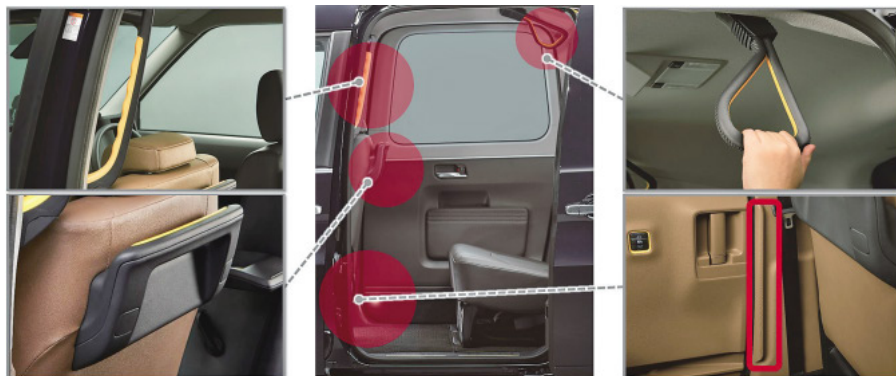
「JPN TAXI」では、床を低く広く、そして段差のないフラットとし、乗り込み高さも低く抑えることで、乗降性と車内での移動のしやすさを改善。随所にアシストグリップを設定し、乗降や伝い歩きなどをサポートしている。

また、そのグリップに「黄色」の差し色を入れることで色覚障がいがある方にも認識しやすいよう配慮している。高い天井、広い窓に加え、前方視界を良くすることで、ストレスの少ない移動が可能となる。夜間の足元照明や、大幅に明るいルームランプも、視認性へ配慮したものとした。

そして、「JPN TAXI」は、シートを可動させることで広い空間を確保。車いす乗降用スロープを全車に搭載し、後部ドアより車いすのままでの乗車を可能としている(車いすの重量・サイズによっては乗車できない場合あり)。また、車いす乗車時は、車いす利用者と介助者が並んで乗車することができ(国土交通省ユニバーサルデザインタクシー認定要件レベル1適合)。

さらに、ドライバーにとっても扱いやすいクルマでなければならない。5ナンバーサイ

ズの車体、ドライバーの扱いやすさを考えたコックピット、大きな窓と細いピラー、そしてフェンダーミラーによる視界の確保など、細部にわたりドライバーにもやさしいユニバーサルデザイン発想の設計とした。



低床フラットフロアとアシストグリップ

「JPN TAXI」のさらなる改善

導入後、好評を得ることができた一方、車いす使用者の方から「乗車に時間がかかりすぎる」「乗車拒否をされた」などの指摘が多数あったことを受け、早期に改良車両を導入した。同時に販売済みの初期車両についても、改良部品とほぼ同レベルの部品に交換した。加えて、タクシー協会の協力のもと、全国11都道府県で「車いす乗降作業ドライバー研修」を実施し、また、多くの車いす使用者の方々との懇談会および試乗会を現在も継続している。



車いす乗車も可能な構造

新しいタクシーを世に出すことで、ドライバー負担への配慮と接客に対する意識改革、そして車いす使用者の方々のコミュニケーションが不足していたことに気づくことができた。今後も「JPN TAXI」は継続して改善を続ける一方、乗降しやすい環境整備を含め、より多くの方々にご利用いただけるよう努力していく。



改良されたスロープ



車いす乗降作業ドライバー研修風景

トヨタのユニバーサルデザインへの取り組み

「シエンタ」は車いす用スロープ車(ウェルキャブ)を型式指定とし、一般のクルマ同様グレードの1つとして販売、登録や車検に必要であった手間を大幅に軽減した。今後、このような対応を他の車両にも展開していく。回転チルトシート(ウェルキャブ)は健常者も乗りやすい形へ進化させ、搭載車両を増やしていく。またフレンドリー用品として、より多くの方々がクルマを使いやすくする「ユニ



ウェルキャブ車両の充実

バーサルデザイン用品」を設定、対象車両をさらに拡大する。以上のように、トヨタはモビリティカンパニーとして、すべての人に移動の自由を提供するという理念に基づき、これからもユニバーサルデザインを考えたクルマ社会を考えていく。「Mobility For All」全てのの人にモビリティを「それが、トヨタ自動車の考える未来である。



フレンドリー用品の拡大

(注)ウェルキャブ：トヨタ自動車て扱う福祉車両